

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

通学課程（大学院）

1. 理工学研究科	<p>(1) 物理学専攻 物理学専攻は、「宇宙物理学・天文学」「物性物理学」「原子核・素粒子物理学」の3分野に分け、理論だけでなく実験を重視した教育課程を編成する。各分野に「特論」科目を配置し、物理学の多様な専門分野に共通する基礎知識を修得させる。また、各分野の専門基礎から応用までを修得するための「演習・実験」科目を配置し、原理・原則から現象を合理的に推論できる思考方法と工学分野に応用できる実践的な知識・研究能力を養う。</p> <p>(2) 化学専攻 化学専攻は、専門分野を「無機化学」「有機化学」「物理化学」「分析化学」「生化学」の5分野に大別した科目区分で、それぞれの分野ごとに講義形態の特論科目および演習・実験科目を配したカリキュラムを編成している。特論科目ではそれぞれの専門分野および隣接する分野における進歩の状況を学び、また、演習・実験科目では実験研究を実践し、さらに各化学研究科目で論文作成の指導を受けながら、研究活動を進める。実験研究を实践、結果を専門分野の学会で発表し批判を受ける過程を通して、課題分析・問題解決の能力を養う。</p> <p>(3) 機械工学専攻 機械工学専攻は、専門分野を「デザイン・加工分野」、「エネルギー・環境分野」及び「システム・制御分野」の3分野に分けて教育課程を編成する。各専門分野に共通して必要な数学的知識とスキルを養うために「数理工学科目」を配置し、機械工学の基盤となる4力学（材料力学・熱力学・流体力学・機械力学）と各専門分野の基礎知識を修得するための「特論」科目を配置する。さらに、「演習・実験」科目を置き、各専門分野の高度な研究手法・応用技術を修得させる。</p> <p>(4) 電気工学専攻 電気工学専攻は、「電力・制御分野」「情報・通信分野」「物性・デバイス分野」の3分野に、「コア科目」と「共通・周辺分野科目」を加えたカリキュラムを編成する。「コア科目」では、各分野の専門科目の履修に必要な基礎知識と数学的スキルを養い、各分野に展開する専門科目では、専門性の高い知識と技術を修得させる。さらに、「共通・周辺分野科目」では、各分野の研究者から最先端の研究や技術動向を学ぶ科目を配置し、視野の広い高度専門的職業人を育成する。</p> <p>(5) 建築・建設工学専攻 建築・建設工学専攻は、「建築デザイン」「構造工学・材料工学」「建設工学」「建築設備」の4つの「専門分野科目」とそれらを広い視野から学べる「共通分野科目」によってカリキュラムを編成する。「専門分野科目」では、研究テーマに関する高度な専門知識・技術を修得するとともに、周辺領域の知識・技術を学び、実務に係る理解力を養う。さらに、「共通分野科目」では、インターンシップ科目を加えて幅広い知見を習得し専門家としての実践力を養うとともに、一級建築士受験にも備える。</p> <p>(6) 環境システム学専攻 環境システム学専攻は、「環境情報系」と「環境技術系」の2つの専門領域を柱とし、「共通科目」「基盤科目」「専門科目（環境情報系、環境技術系）」によってカリキュラムを編成する。「共通科目」では、各専門領域に共通する広範な基礎知識・技術を修得させ、「基盤科目」では、各専門領域の専門基礎知識・技術を修得させる。さらに、「専門科目」では、各領域の高度な専門知識と技術を修得させ、「総合学外実習」や論文指導を通じて、国内及びアジア諸国の環境問題の解決に応用・展開する実践力・実行力を養う。</p>
-----------	---

2. 人文学研究科	<p>(1)英米文学専攻 本専攻は、英語学・英文学・米文学・文化研究の各分野において、体系的に学ぶ機会を提供するとともに、専門分野の個別テーマの探究を指導することを目的としている。英語での学位論文作成に向け、研究アプローチの選択とアカデミックライティングの方法論など多彩な関連科目を置き、英語圏文化についての講義や英語論文作成能力の養成を行う。</p> <p>(2)社会学専攻 本専攻は、社会学・社会福祉学の分野において、大きく変化する現代社会の課題に対し多様な視点から対応するために文献研究、実習、演習、調査を通じてそれらを実際に運用できる実践力を身につけ、価値、知識、技能の統合を図る。</p> <p>(3)心理学専攻 心理学における研究遂行に必要な資料収集・分析および研究成果の発信能力を身につけるためのカリキュラムを提供する。具体的には、各領域における研究の現状や課題という高度な専門的知識を総合的に提供する「専門講義科目群」、データ解析法や心理学的研究方法論を身につける「研究法科目群」、さらに、自らの研究課題の意義を理論的・社会的文脈に適切に位置づけ、研究を遂行するための「研究科目群」を備えている。また、高度専門職である臨床心理士を目指す臨床心理学コースにおいては、臨床技法の習得のための「臨床技法科目群」「臨床実習科目群」も備えている。</p>
3. 情報学研究科	<p>情報学専攻 急速に進展するグローバルな高度情報社会を支える情報技術分野において、より先進的で高度な専門知識と技術を身につけ、それらを活用して、新しい時代の技術課題を実践的に解決できる応用能力を持った人材を養成するためのカリキュラムを編成する。</p>
4. 経済学研究科	<p>応用経済学専攻 応用経済学専攻は、経済学の基礎的素養を修得するための「コア科目」と、6つの応用分野（「商学・流通」「地域・アジア・国際」「租税」「会計」「金融」「政策」）に分類される「専門科目」で編成される。「コア科目」では、経済学の基礎的知識と実証的分析手法を修得し、「専門科目」では、修士論文執筆に必要な各応用分野の専門的知識と実証研究の手法を修得する。また、研究指導・論文指導を通じ、修士論文の作成と共に、実践力となるプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。なお、税務のスペシャリスト養成の観点から、税理士試験科目免除を目的とする税法論文に役立つ専門科目を充実し、税法研究者・実務経験者による論文指導を行う。</p>
5. 教育学研究科	<p>教育学専攻 本専攻は、教員・保育士、及び教育・保育に創造的に関わる人を育成する学部をベースに、障害児者教育・教科教育学分野の充実を図り、教育思想、教育課程、教育方法、教育行財政、教育心理等を多面的に研究し、指導的立場で活躍できる人材を養成する。また、幼・小・中・高教諭及び特別支援学校教諭の専修免許状の取得可能な教育課程を編成している。</p>